

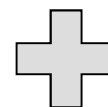
第5回総合球技場基本計画検討委員会

小瀬スポーツ公園全体の有効活用方策について

平成30年10月19日

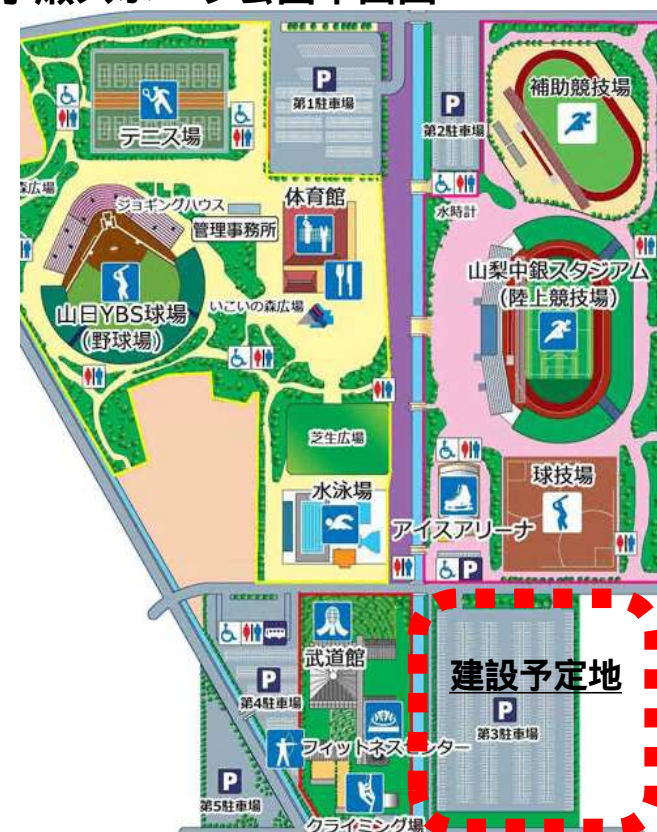
1. 小瀬スポーツ公園の概要

施設名称	施設概要	備考
陸上競技場	トラック(400m×8ｺｰｽ)、フィールド(芝生、106m×69m)、スタンド、会議室等、夜間照明	第1種公認(陸上)、サッカー、ラグビー、アメフトボールなど
補助陸上競技場	トラック(400m×6ｺｰｽ)、フィールド(芝生、105m×75m)	第3種(陸上)、サッカー、グラウンドゴルフなど
球技場	フィールド(クレイ舗装、120m×130m)、夜間照明	サッカー1面、ソフトボール2面、陸上投擲練習など
野球場	内外野スタンド、夜間照明	高校野球など
水泳場	50mプール、25mプール、メインスタンド	公認プール(水泳)
庭球場	コート(サンドフィル)16面、メインスタンド	
体育館	メインアリーナ(50.4m×44m×15m)、サブアリーナ(37.6m×21.6m×10.2m)、会議室、研修室	バレーボール、バドミントン、ハンドボールなど
武道館	アリーナ、武道場、弓道場、相撲場、フィットネスセンター、会議室、研修室	アリーナ(柔道・剣道試合場6面、バレーボール3面)
アイスアリーナ	リンク(60m×30m)	
クライミング場	メインウォール(2面)、練習用ウォール(3面)	



総合球技場
フィールド(芝生)、夜間照明、スタンド、会議室、トレーニングジム・フィットネスルーム、ロッカー室・シャワー室、アリーナ、屋内芝生練習場、ランニングコース等

小瀬スポーツ公園平面図



(出典：小瀬スポーツ公園ホームページ)

2. 想定される活用方策

(1) 全国大会、合宿の開催

小瀬スポーツ公園の既存の機能（陸上競技場（ ）、補助競技場等）
陸上競技場については芝の管理基準の緩和による利用可能日の増加の可能性
+
新たな総合球技場（トレーニングルーム、アリーナ、屋内芝生練習場、諸室（会議室）など附帯施設を含む。）



- ・同時に多面ピッチを利用できることによる競技団体、学校等の合宿利用、及び大会などの開催可能性が高まる。
- ・さらに、練習施設・トレーニング施設、会議室等運営関連施設が増加することにより、大会利用者側の利便性が高まる。
- ・一方で、合宿開催などは、宿泊施設との連携が不可欠であるため、県内宿泊施設との連携等が必要である。

岩手県北上市は、自治体が一元窓口になって調整を実施。

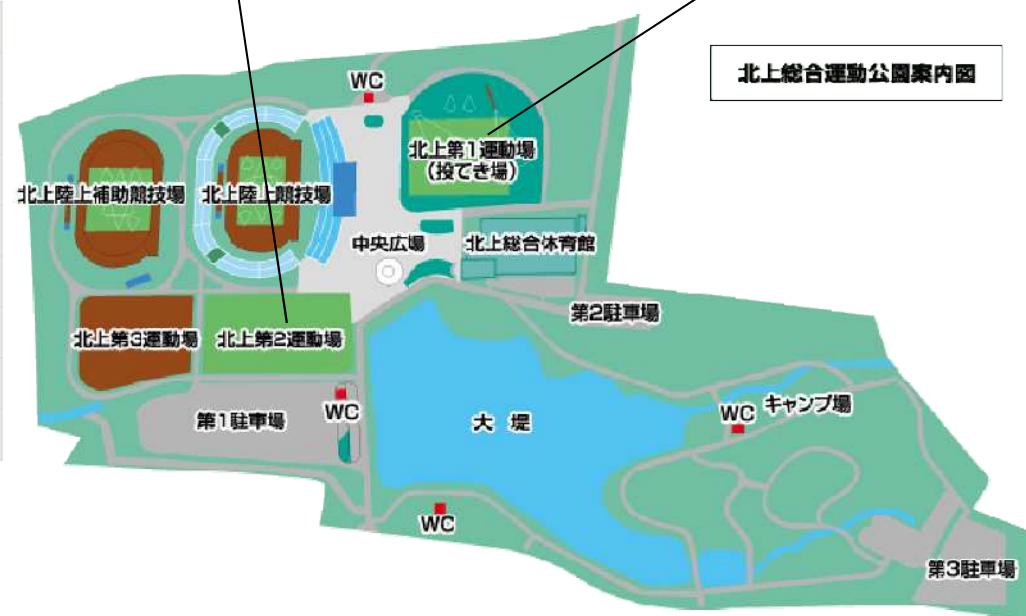
2. 想定される活用方策

(参考事例) 北上総合運動公園

- ・陸上、ラグビーなどの合宿誘致活動を実施。
- ・第1種公認陸上競技場及び第3種公認陸上補助競技場を備え、ラグビー競技利用ができる天然芝グラウンド5面が確保できる屋外施設を有する施設。体育館もあり。
- ・IC及び新幹線停車駅からの交通の便も良く、1,335台駐車可能な駐車場を完備。
- ・自治体による送迎、受け入れ窓口の一元化などの誘致活動を実施。
- ・公園内に宿泊施設はないが、手配などの支援を自治体側が実施。



開催種目	年	チーム名
陸上競技	2014-2016	日本大学陸上競技部
陸上競技	2015	慶応大学体育会競走部
陸上競技	2015	日本荏原高校陸上競技部
ラグビー	2014-2015	ラグビー高校日本代表候補
陸上競技	2015	仙台二華高校
ラグビー	2014	T.I.Dキャンプ
ラグビー	2013	高校日本代表候補(トライリージョンス)
ラグビー	2011	同志社大学、日本大学



2. 想定される活用方策

(2) 防災機能の強化

現在の小瀬スポーツ公園の防災機能

- ・現在の小瀬スポーツ公園は、防災公園として災害時には広域医療搬送拠点、消防、警察、自衛隊等の活動拠点としての機能を有している。

新球技場で想定される防災機能

- ・新球技場においては、万が一の災害時においても安心できる施設耐震を実施。
- ・緊急時、災害時の避難において、観客がスムーズに避難できるような施設計画とし、災害マニュアルを整備する。
- ・さらに、災害時にライフラインが途絶しても防災活動が可能ないように、非常用発電設備や各種貯留槽をはじめとする各種防災機能を設置する。
- ・調理設備、シャワー室、トイレ等の災害時利用を想定する。
- ・新球技場と公園全体の利用者の避難や、災害活動の連携が図れるよう、スタジアム内での防災備蓄倉庫の整備、スタジアム外構エリアにおけるかまどベンチ、マンホールトイレ、防災パーゴラの設置など、地域の拠りどころとなる防災拠点化を図る。

2. 想定される活用方策

(3) イベントなどの総合運動公園全体での有効活用

取り組み例	実施内容	事例
競技場施設等を利用した一体的なお祭り、賑わい創出	競技場自体を開放し、イベント、ライブビューイング会場等とすることで、集客イベント等を開催することができる。	・神戸総合運動公園「ユニバ祭」
マルシェ	総合球技場敷地に設置されるイベント広場を中心としたマルシェやフリーマーケット等のイベント開催が可能となる。	・福島県営あづま総合運動公園「手作りマルシェ」

2. 想定される活用方策

球技場利用イベント：神戸総合運動公園「ユニバ祭」

- ・ 公園内の駅前広場にステージと客席(約400席)を設け、ご当地グルメを取り揃えた飲食販売のテント11ブース(予定)が出店するビアガーデン、地元出身のアーティストを中心としたステージを日替わりで開催。
- ・ 通常は立ち入り禁止となっている競技場の天然芝とトラックが無料で解放され、ステージでは吹奏楽や和太鼓演奏、ヒーローショーなどが繰り広げられるほか、大型ビジョンではアニメシアターの上演、競技場内に縁日コーナーなどが軒を連ねる。
- ・ 祭りのフィナーレには500発の花火が打ち上げられ、近い距離に上がる花火を眺めることができる。



2. 想定される活用方策

イベント会場を活用したマルシェ等：福島県営あづま総合運動公園「手作りマルシェ」

- ・ 2013年から始まり、第6回目となる2018年の開催では、二日間で県内外から手づくり作家が約150店、飲食ブースが38店出店。
- ・ 公園内敷地を活用して、各地域から多数出店。年齢性別問わず、誰もが楽しめる多様なイベント。
- ・ 音楽ライブや大道芸パフォーマンス、県内の高校生によるダンスの上演
- ・ 農家の方達の野菜販売
- ・ 子供たちが遊べるキッズパークや、今話題のグランピング体験スペースの設置。
- ・ 2018年は山形米沢から「やまがた愛の武将隊」が来場。愛の兜でお馴染みの直江兼次、上杉景勝らによる演武を実施。

